

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名：曾於畑地かんがい農業推進センター 農業普及課

課題名③ 曾於地域パッションフルーツ産地の歩みと次世代へつなぐ取り組み						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	5				
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	4	1			
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	4	1			
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	4	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	2			
活動の 波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	1			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	2			

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：曾於畑地かんがい農業推進センター 農業普及課

課題名③ 曾於地域パッションフルーツ産地の歩みと次世代へつなぐ取り組み						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	2	1			
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	2	1			
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	3				
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	1			
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	2	1			
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3				
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3				

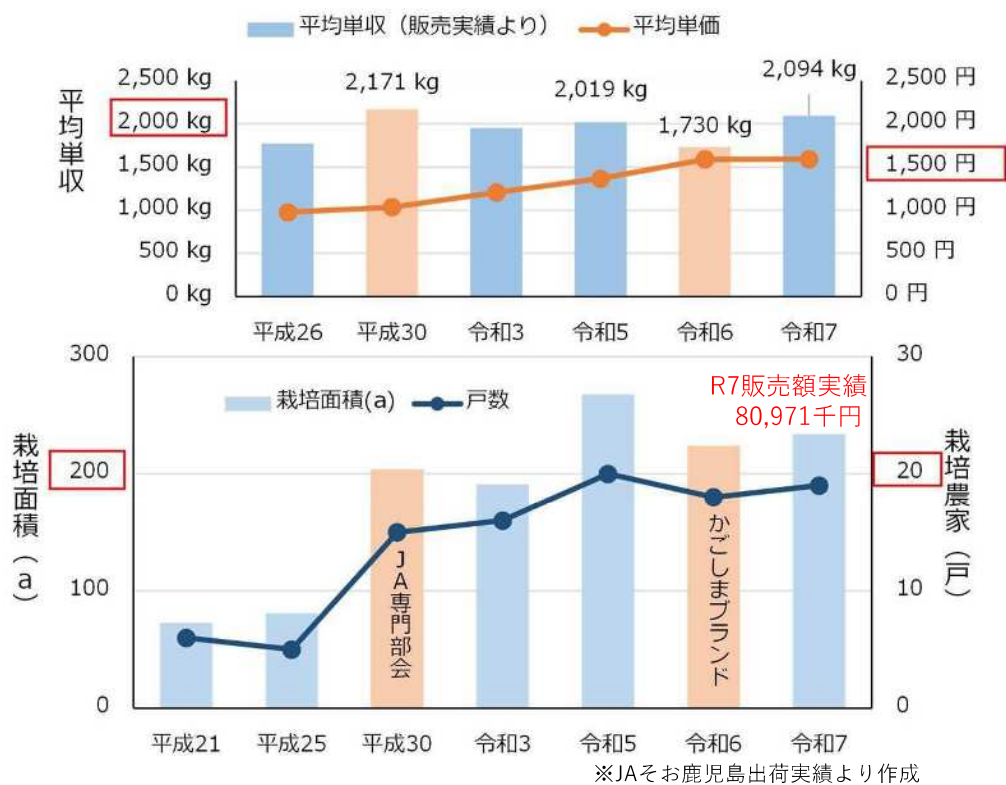
曾於地域パッションフルーツ 産地の歩みと 次世代へつなぐ取り組み

曾於畑地かんがい農業
推進センター

果樹花き係 中川路



産地の概況（パッションフルーツ）



普及課題の重点品目として取り上げた背景

パッションフルーツ

- ・栽培面積，農家が増加
- ・販売単価が高い（R7実績 1,591円/kg）
- ・生産コスト（重油）が低く収益性が高い
- ・かごしまブランド団体認定
- ・市場からの需要の高まり



令和15年目標
販売額 1 億円！



※ 6 月 1 0 日はパッションフルーツの日
JA鹿児島県経済連HPより



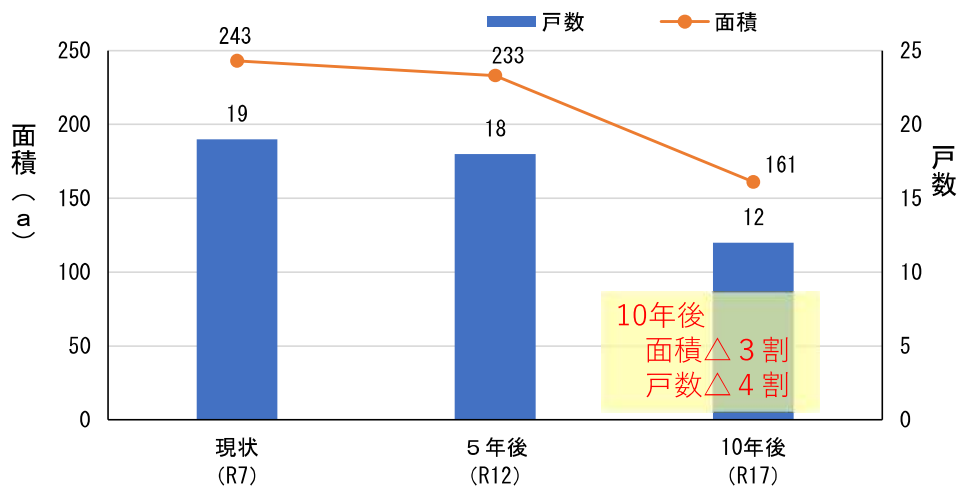
※ 市場関係者との意見交換会
R7.5.15 大田市場

3

普及課題の重点品目として取り上げた背景

支援対象：施設果樹農家（JA果樹部会）

栽培品目：パッションフルーツ（19戸）、不知火，マンゴー，ハウスミカン



※ 後継者有、第三者継承の意志有は10年後も継続していると仮定

パッションフルーツの今後の方針について個別聞き取り

10年後、栽培面積、農家戸数ともに減少予測

令和15年販売額 1 億円（ブランド目標）に向けた技術・産地維持の取組

4

産地の歩みと 普及の取り組み

産地の動き

園芸振興協議会の取組
(JA・市町・県)

平成21年

パッションフルーツ栽培開始

栽培・防除暦の作成
施肥省力化 (施肥回数 4 回
→ 緩効性肥料利用 2 回)
人工受粉の省力化
(クロマルハナバチ導入)
増収技術検討 (単収 2 t
→ つり上げ栽培 4 t 超)

平成30年

JAそお鹿児島果樹部会
パッションフルーツ専門部会
栽培面積 2.0ha、15戸

令和4年

【↑ 令和4年度 取組成果の報告】

【↓ 令和7年度 取組成果の報告】

令和6年

かごしまブランド産地団体認定
栽培面積 2.2ha、18戸

増収技術普及 (つり上げ栽培)
電照栽培検討 (早期出荷)
炭酸ガス施用検討
(着花安定, 増収)
果樹農家事業承継支援
(産地の維持)
曾於地域版技術マニュアル作成
(産地技術の継承)
個別カウンセリング

令和15年

目標：販売額 1 億円

5

発表内容 (令和5～7年の取組)

1 新技術の普及と調査研究

① つり上げ栽培法による増収技術の普及
単収平均 2 t → 目標 4 t 超

② 電照栽培による作期拡大の調査研究

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
(従来)	植付					受粉			収穫			
(電照)	植付	電照	受粉		収穫							

③ 炭酸ガス施用による生産安定の調査研究
炭酸ガス (CO₂) 施用で光合成促進
→ 花蕾の成長促進により着花安定

2 産地育成の支援

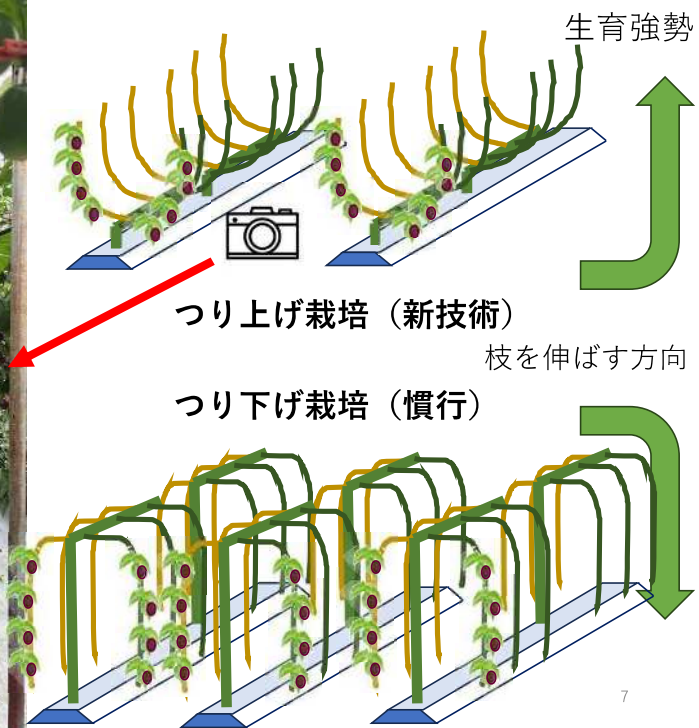
① 産地維持のため次世代への事業承継支援

② 施設果樹個別カウンセリングの実施

6

1 新技術の調査研究と普及

① つり上げ栽培法による増収技術普及

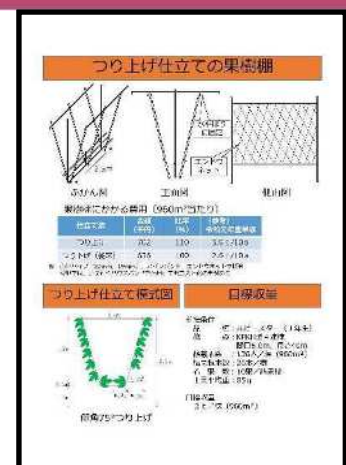


1 新技術の調査研究と普及

① つり上げ栽培法による増収技術普及

表 仕立て法の違いによる単収の比較(R6)

圃場	仕立て法	単収 (JA出荷実績)	(指数)
A	つり上げ	2,647 kg/10a	(100)
B	つり下げ	1,792 kg/10a	(68)
C	つり下げ	2,152 kg/10a	(81)



- つり上げ栽培は樹の生育が良好（強勢）で、葉が大きく、収量が増える。
- 果実の日当たりが良く、商品化率が高い！
- 労力（芽かき作業）が増え、収穫期の作業量増！

「パッション仕立てマニュアル」
農業開発総合センター果樹部作成

つり上げ栽培実施農家数 R6：3戸 着果数調査
R7：4戸 栽培講習会
R8：5戸



今後も講習会等で情報提供し、導入を提案していく

1 新技術の調査研究と普及

② 電照栽培による作期拡大

パッションフルーツの開花には
11～12時間/日以上の明期（日長）が必要とされている

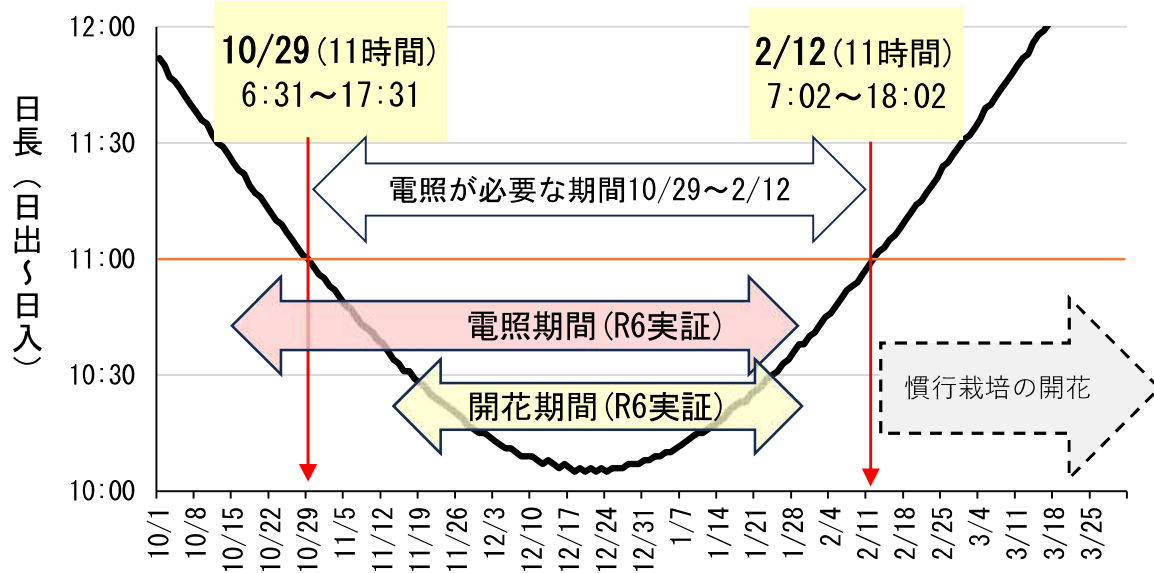


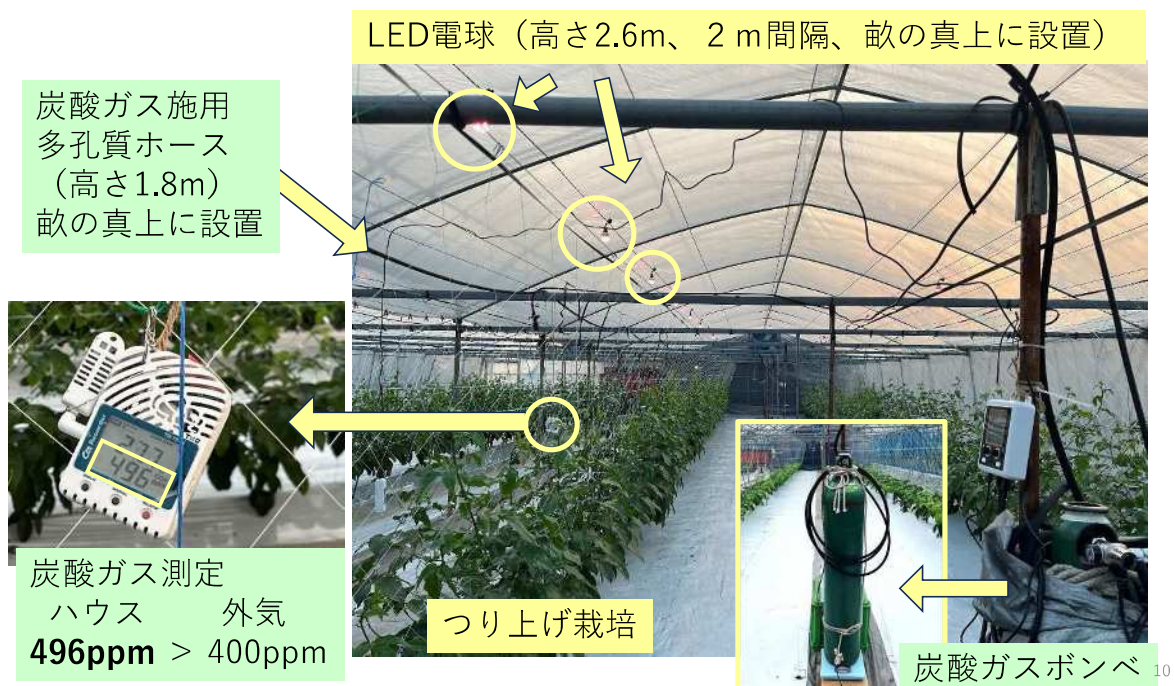
図 日出から日入までの時間（地点：志布志）

9

1 新技術の調査研究と普及

② 電照栽培による作期拡大 ③ 炭酸ガス施用による生産安定

実証区の風景（R6.11.19 電照開始時期）



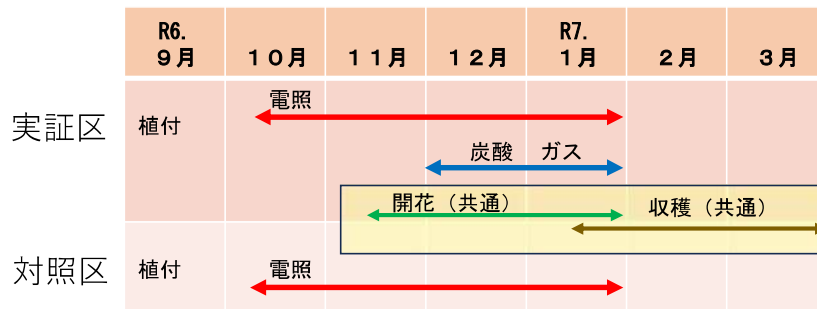
10

1 新技術の調査研究と普及

② 電照栽培による作期拡大 ③ 炭酸ガス施用による生産安定

実証ほ設計 (R6～R7)

区名	定植	仕立て法	処理	期間	処理時間
実証	9月上旬	つり上げ	電照	10/15～1/30	4:45～7:30, 16:30～19:30
			CO2	12/ 5～1/30	4:45～19:30
対照	9月上旬	つり上げ	電照	10/15～1/30	4:45～7:30, 16:30～19:30



※炭酸ガス (CO2) の最適な濃度などの試験研究データは無いため、果菜類の施用方法を参考に、ハウス内の日中炭酸ガス濃度は外気 (400ppm) 以上を目標に施用した。

11

1 新技術の調査研究と普及

実証結果 (電照の効果)

1. 電照開始から **1 か月後に開花** した。※出荷のピーク：3 月
 2. 電照により開花時期、収穫時期を前進化することができた。
- **産地の出荷時期拡大**の可能性 (5～8 月出荷 → **3～8 月**出荷)
- ただし、産地としては4～5 月の出荷量が少なく、電照時期を検討中

表 電照期間と開花、収穫時期

電照	開花	収穫
10/15～	11/16～	2/18～
1/30	1/20	6/14
(慣行栽培)	2月上旬～	5月下旬～

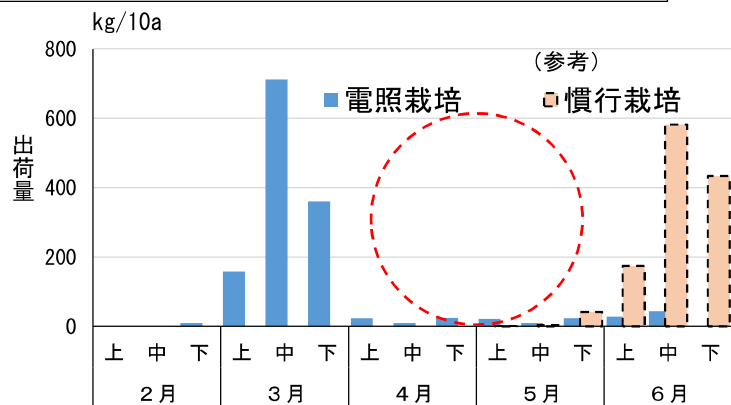


図 時期別出荷量 (R7出荷実績)

12

1 新技術の調査研究と普及

実証結果（炭酸ガス施用の効果）

- 炭酸ガス施用で**増収**
- 実証区の着果量が多く、**着色が早い**（写真左）

表 炭酸ガス施用が着果数に及ぼす影響

区名	着果数 千個/10a	推定収量 (t/10a)	(指数)
実証 (CO ₂)	63.8	4.09	(264)
対照	24.2	1.55	(100)

※推定収量は1果80g, 商品化率80%で試算



実証区 (CO₂施用)



対照区

13

1 新技術の調査研究と普及

実証成果の現地導入・波及の取組

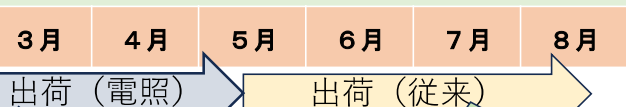


これまでの実証成果、調査データを掲載して情報共有、技術の波及つり上げ栽培収量、電照、土壌調査、etc...



※作成中
「曾於地域版パッションフルーツ少加温栽培の手引き」

～これまでの現地実証成果の総合化～
曾於地域パッションフルーツ新標準作型



省力化技術
ハチ受粉、緩効性肥料、etc...

増収技術
電照、CO₂、仕立て法等...

今後の取組
気候変動対応
高温回避、etc...

14

2 産地育成の支援

1 産地維持のため次世代への事業承継支援

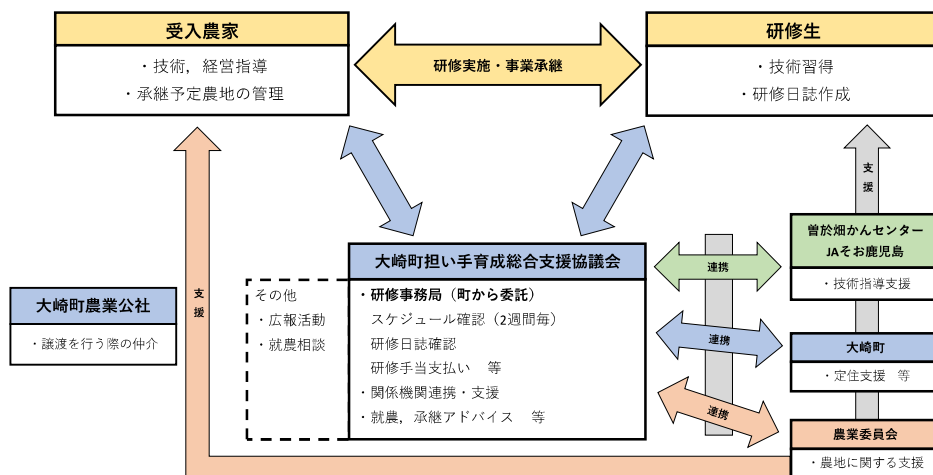
事業承継就農研修事業の支援（大崎町）

受入農家：マンゴー10a、パッションフルーツ10a

研修生受け入れ期間：令和7年4月～8月※

支援内容：栽培技術支援、定期作業打ち合わせ、中間検討会

※受入農家、研修生の今後の方針の違い等により、研修中止。



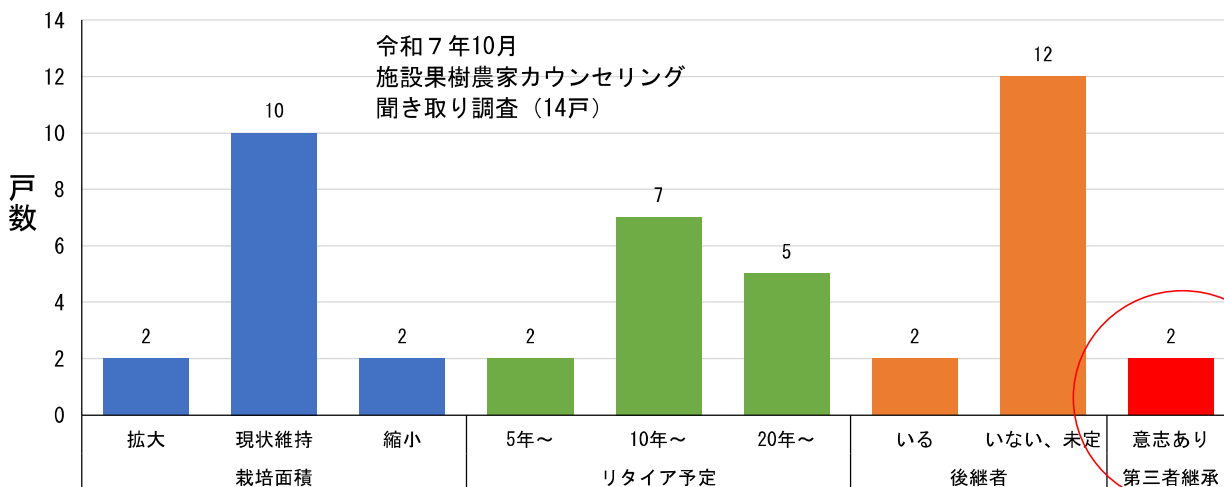
事業承継就農研修事業 支援体制図（大崎町担い手育成総合支援協議会資料より）

15

2 産地育成の支援

1 産地維持のため次世代への事業承継支援

パッションフルーツの今後の方針について個別聞き取り
（施設果樹個別カウンセリング）



「第三者継承の意志有り」は14戸のうち **2戸**。

施設の老朽化で**継承時のコスト**※を心配し、難しいとの意見が多かった

※ハウス・暖房機等の修繕や新規導入・更新...

16

2 産地育成の支援

2 施設果樹個別カウンセリングの実施

実施方法

時 期：10～11月

対象品目：施設果樹

(パッション、マンゴー、加温不知火、ハウスミカン)

実施者：農家、JA、畑かんセンター

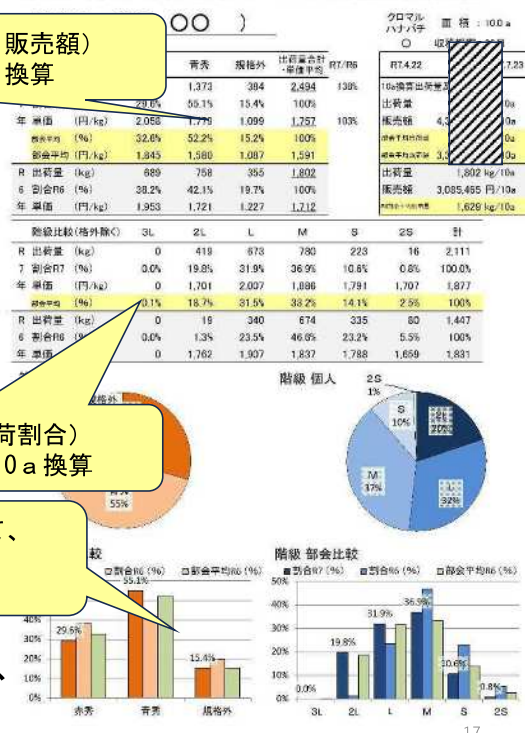
個別に実施

方 法：① 1品目あたり15～30分

② 出荷実績を基に要因、
次年度対策の検討

③ **新技術導入の提案**

令和7年産パッションフルーツの個人別出荷実績



残された課題と取り組み

1 新技術の普及と調査研究

- ①新技術の導入支援
炭酸ガス施用装置や電照栽培の費用対効果
- ②課題解決を求められている技術的課題
高温対策（着色不良、しなび果）
着果初期に発生するしおれ果
- ③労働力の確保と更なる省力技術の検討

2 産地育成の支援

- ①産地課題
新規栽培者の確保対策
事業承継の取組支援